

牛久：学校周辺に見る自然

第3号

ひたち野西近隣公園（ひたち野うしく小学校）

2011年4月23日発行

＜ 水辺公園の春 ～ ② キク科の仲間 ＞

4/20(水)、ひたち野うしく小4年生の水辺公園、春の生き物観察の続きです。今回は、2号で紹介したタンポポと同じキク科の仲間です。いろいろ見られた中で、オニタビラコとオオジシバリについてお話しします。その他観察されたものでハハコグサ、ハルジオン、ノボロギクは22年度第2号に、ノゲシ、オニノゲシは22年度第5号に紹介していますので、そちらをご覧ください。



(1) オニタビラコ (キク科, オニタビラコ属)

春の七草で「仏の座」と呼ばれるタビラコよりずっと大きいので（ただし、1個1個の花は小さい）、「鬼」がつきオニタビラコと命名されたようですが、別属で親せき関係は近くありません。そしてタビラコの方がオニタビラコより小さいからとオニタビラコと呼ばれるようになり、ますますややこしくなっていました。ちなみに「田平子（タビラコ）」という名は、「田んぼに平たく張り付く」ような姿から名づけられたそうです。最近、毛が多く太い花茎を一本立て、葉が赤みを帯びるアカオニタビラコと、細い花茎がたくさん出て葉が赤くならないアオオニタビラコとに分けるとい説もありますが、中間的なものも多く、それは環境の違いによるものだという考えもあって結論はまだ出ていないようです。



(2) オオジシバリ (キク科, ニガナ属)

「タンポポみたいな黄色い花があるよ。」と呼んでくれました。行ってみると、田んぼの畦など、湿った所に多いオオジシバリでした。似ているけど違うことに気がついたこと、すばらしいです。走出枝という細長い枝を出して、その所々で根を下ろして、まるで地面をしばりつけるように広がるから「地縛り」なのだそうです。少しでも土があれば繁殖できるそうで、コンクリートの水路の中でも広がっていました。

その他(左からハルジオン、ハハコグサ、オニノゲシ、ノゲシ)。解説は22年度2、5号。【理科支援員 宮内】

